

【SDGs×泉電池工業】産休・育休制度座談会

社員が働き甲斐を実感し、居心地良い職場環境を目指す当社。
目まぐるしく変わる社会情勢に鑑みて、社内制度の改定・運用をしています。

3 すべての人に
健康と福祉を



8 働きがいも
経済成長も



SDGsと働き甲斐に着眼点を置き、当社の産休・育休制度について座談会を実施しました。

実際に制度を利用した女性2名と、所属長、規程作成をした総務担当者にリアルな声を聞いてみました。

産休・育休制度を利用し、自分らしく働いている社員

Question.1
制度の利用について、不安なことはありましたか？仕事はどうですか？

◆Nさん(女性/営業担当-2014年取得)
私の時は、全社員で30人もいなかった時代でしたから、産休に入ることは少し申し訳なく感じました。
でも直属の上司が「妊娠おめでとう、入社してからこれだけ成長したね。戻ってからも一緒に仕事をしようね」というメッセージをくださって、とても嬉しかったことを覚えています。
仕事と子育ての両立は、当時は振り返ればやっぱり大変だったなあと思いますね。
けれど今は子供も小学3年生で手がかからなくなり、仕事にも打ち込めます。
家事・育児・仕事のバランスが均等になりました。

自分らしく
働いています！



◆Fさん(女性/営業アシスタント-2021年取得)
フォロー体制が整っていたので、産休・育休を取ることへの不安はそれほどありませんでした。
急なことで引継ぎをきちんとできずに産休に入りましたが、総務の方や上司がこまめに連絡をくださったおかげで、復帰後の環境には何の心配もありませんでした。
しいていえば、復帰してからの家庭と仕事の両立ができるのか・・・という不安はありましたね。
でも復帰して、1週間はシステムの使い方やマニュアルを見返す・思い出す機会を作っていたので、スムーズに業務を進める事が出来ました。また、「無理しなくていいよ」とか、「帰ってきてくれてありがとう」と言われたことは、とても嬉しかったです。
泉電池工業は居心地が良い職場だと思います。

産休・育休制度を利用するメンバーへのフォロー、課の円滑な運営に尽力した上司

Question.2
産休・育休を取得したメンバーのフォローにあたり、どのような工夫をされましたか？

◆Mさん(男性/営業課長)
自身もFさんの課へ異動したばかりで、まずはアシスタントの業務量を把握しました。
Fさんが復帰するまでは、もう一人のアシスタントの業務量が無理のないように調整をしていましたが、業務量が多く、どうしても負担が多くなることもあり申し訳なく感じていましたね。
それでもなんとか課を支えて奮闘してくれたおかげで、Fさんが戻ってからは忙しいけれど仕事をお任せできる範囲が広がりました。ブランクがあると思えないほど仕事は早かったし、アシスタント2名体制として、なくてはならない存在ですね。
課員が働きやすい、意見が言いやすい雰囲気にするため声かけを大事にしています。

社員が働きやすい・働き甲斐を実感できる職場環境整備を担う総務

Question.3
産休・育休制度の規定、運用方法を作成するにあたり、どのような配慮や工夫が必要でしたか？また今後どのようなことに挑戦したいですか？

◆Hさん(男性/総務課長)
産休・育休を取得する人にだけ寄り添えば「取っていいですよ」と言えますが、全体のことを見ると簡単には言えない難しさがあります。不在の1名分の労力を割り振るか、短期採用等も検討しなくてはなりません。育児の事情で離職するというのはとても残念なことですから、できる限り周囲の協力を得て復帰できるように、規程や運用を始めとする環境を整えたい。一時はたしかに大変かもしれませんが、働き続けられる場所があれば活躍できると考えています。
今後挑戦したいこととしては、男性の育児休業取得です。女性の育児取得は当社でも実績がありますが、男性の取得はまだ多くありません。女性だけではなく男性の育児休業取得も今後増やしていきたいと考えています。国や会社が成長するためには、我々もそれに応じた長期キャリア形成ができる土台が必要だと感じています。
社訓の「共存共栄」に沿うためにも、SDGs項目8「働きがいも経済成長も」に取り組むためにも育児休業の運用に力を入れて努めていきます。

SDGs推進担当コメント



人材を大切にしていることでSDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」8「働きがいも経済成長も」に貢献できていますね！

今回は当社の制度「産休・育休」について、異なる立場・考えを持っている4名で座談会を実施しました。
何よりの収穫は座談会を通し、当事者の生の声が聞けたことです。
改めて当社は「人」を大切にしている会社風土だと実感しました。

当社は引き続き時代の変化に適合する多様な働き方を通じた社員の意欲と企業価値の向上に努め、SDGsが目指す「働き甲斐も経済成長も」への貢献もしていきます。